

赤門学友会報

懐徳 KAITOKU
October 2010 No.19

第9回ホームカミングデー開催案内
11月13日(土) 10:00~18:00 (本郷・駒場)



TSII 東京大学の卒業生連携プログラム

卒業生インタビュー 今、東大に還る ⑬

末吉竹二郎 国際金融アナリスト

研究室をつなぐ人々 ⑩ 薬学系研究科・薬学部 天然物化学教室

同窓会開催報告 コミュニティレポート

キャンパス・ビュー (sports) 東京大学硬式野球部

東大基金より



第9回ホームカミングデイ 学部・研究科・研究所別イベントのご案内

プログラムの最新情報は、赤門校友会のウェブサイト <http://www.todai-alumni.jp> をご覧ください。

	午前 13時	14時	15時	16時	17時	18時	問い合わせ先
法学部				●講演会 藤原一教授 「国際関係は変わったか— 国際政治における不易と流行」	(会場/法文1号館22番教室)		庶務係 03-5841-3103
医学部		●講演会 「ライフサイクルと医療」			会場/医学部図書館333号室		教務係 03-5841-3385
情報理工学系	●シンポジウム 「情報科学の現在、情報科学の未来」 理学部情報科学の現在について紹介するとともに、情報科学の未来について議論する。						情報理工学務 グループ 03-5841-6889
工学部			未決定				総務チーム 03-5841-7792
文学部			未決定				教務係 03-5841-3709
理学部			●講演会・展示・座談会 検討中 ・本理学部卒のサイエンスイラストレーターの作品を展示 ・学生による講演会 ・外部研究者を招いての講演・座談会		(会場/小柴ホール(理学部1号館))		総務チーム 03-5841-4005
農学部				●講演会 弥生講堂		●懇親会	総務チーム 03-5841-5482
経済学部	(会場/経済学研究科棟 第1教室(地下))	●講演会 東京大学名誉教授・経済学研 究科附属金融教育センター長 貝塚 啓明 「日本の財政赤字」		●懇親会 経済学研究科棟コミュニ ティラウンジ(1階)			庶務係 03-5841-5543
教育学部			#156講義室	●講演会 「翻訳と多言語環境」 講師 影浦 峯 教授		●懇親会 「同窓の集い」 生協第2食堂	教務係 03- 5841-3902
薬学部		(会場総会・講演会 講堂 (薬学系研究科総合研究棟 2階))		●薬友会総会及び講演会 ①荒金久美(コーサー執行役員) ②阿部郁朗(教授・薬学系研究科・天然物化学教室) 会場総会・講演会 講堂 (薬学系研究科総合研究棟 2階)		●懇親会 会場/大会議 室	教務チーム 03-5841-4727
公共政策大学院					●懇親会 法政治学系総合教育棟 ※要申込み		ホームカミ ングデイ担当 03-5841-1710
地震研究所	●講演会・展示 11:00~12:00 講演会テーマ:「観る、 視る、測る」 講演者:大久保 修平 11:00~14:00 展示		(会場/講演会: 地震研究所1号館3階セミナー室 展示: 地震研究所1号館2階ラウンジ)				庶務チーム 03-5841-5666
附属図書館 日曜、祝日を含む	●展示 テーマは、「総合図書館貴重書展: 原資料の保存と電子化による情報発信」。 東京大学附属図書館ホームページで公開している電子化コレクションのなかから総合図書館所蔵の貴重書を中心に関連資料を展示します。 会場/総合図書館3階ロビー						情報サービス課 03-5841-2640
社会科学研究所	●展示						総務チーム 03-5841-4904
生産技術研究所	●展示・懇親会 (工・2号館)						総務・広報チーム 03-5452-6866
史料編纂所	●展示 (史料編纂所216室)						総務・給与チーム 03-5841-5997
駒場 教養学部	12:20~ ●オープニングセレモニー ~演奏会 ●駒場キャンパスオープニングセレモニー 山影 進学部長の挨拶 ●教養学部選抜学生コンサート 学生から選抜された演奏者による、スタインウェイフ ルコンサートピアノを使った演奏会 会場/駒場コミュニケーションプラザ北館2階 音楽実習室		●講演会・キャンパス内ツアー 「駒場の樹木を楽しむ会」 ●駒場友の会主催イベント (内容調整中) 会場/駒場コミュニケーションプラザ北 館2階多目的教室		●レセプション		総務課総務係 03-5454-6013
	●展示 駒場博物館特別展 「真空から生まれる科学と技術: アリストテレスからカミオカンデまで」 真空に関わる科学と技術の歴史をたどりながら、学問的な関心と技術の進展の多様な結びつきのかたちを明らかにする。						
	●展示 駒場図書館企画展 「タイトル未定」						
数理科学研究科				●講演会 中村 亨氏		●レセプション	総務係 03-5465-7014

■恒例のイベント ●現役東大生によるキャンパスツアー ●(懐徳館)茶道部によるお茶会
※9月上旬の計画です。場合によっては、イベントの変更・中止等させていただく場合もありますので、ご了承ください。

すべての東京大学卒業生のための祭典
第9回 東京大学ホームカミングデー開催!
日時▼11月13日(土) 午前10時~午後6時(個別にはもっと遅い催しもあります)
場所▼本郷キャンパスおよび駒場キャンパス

特別フォーラム

「社会が変わる、ベンチャーで変える、東大が変える!」
日本社会の閉塞感を打破し未来に希望を見出すには、既存の価値観を超えた新
進企業の隆盛など、若い層が元気で活躍する姿を見ることです。昨年「新技術
特集」に引き続き、今年はベンチャー企業の創業経営者に熱く語っていただきま
す。なお前号での予告からプログラムの一部変更があり、キーノートスピーカー
が濱田東京大学総長に替りました。
今年も「知の創造的摩擦プロジェクト」共催で広く学生にも開かれています。

場所 安田講堂(予約不要) 司会 佐々木恭子氏(フジテレビアナ
ウンサー、96年教養学部卒)
時間 13時30分~15時30分
基調講演 濱田 純一東大総長
パネリスト 飯塚 哲哉氏(ザインエレクトロニクス(株)社長、70年工学部卒)
飯塚 浩氏(EPS(株)社長、93年医学系Dr.修了)
岩瀬 大輔氏(ライフネット生命保険(株)副社長、98年法学部卒)
出雲 充氏(株)ユーグレナ社長、02年農学部卒)
各務 茂夫氏(東大産学連携本部事業化推進部長教授)

モデレーター



濱田純一 総長



飯塚哲哉氏



飯塚浩氏



岩瀬大輔氏



出雲充氏



各務茂夫氏



本郷いちょう芸術祭
(音楽演奏をお楽しみください)

場所▶安田講堂
時間▶10時~12時
[出演者] 音楽部管弦楽団(東大オケ)、柏葉合唱団(混声合唱)、和太鼓、など

歓迎式典

場所▶安田講堂
時間▶12:30~13:15
●濱田純一 総長挨拶
●来賓挨拶
●活動報告

■問い合わせ先
赤門校友会 gakuyukai@adm.u-tokyo.ac.jp, Fax 03-5841-1054
卒業生室 ttf@adm.u-tokyo.ac.jp 電話 03-5841-1216

TSII 東京大学の卒業生連携プログラム Todai Social Innovation Initiative

「卒業生との緊密なネットワークの形成」を目指す東大イニシアチブがTSII(= Todai Social Innovation Initiative)です。卒業生が生涯にわたって大学との絆を持ち続け、世界的視野に立って大学や社会に貢献し続ける活動の場を提供するプログラムを展開します。皆様のご参加をお待ちしています。

グレーター東大塾 ★★★★★ (先端専門性の高い生涯学習プログラム)

先端専門性の高いテーマを取り上げて、その課題に精通する東大教授陣を長とする「塾」スタイルの講座。塾長となる教授の指導のもとで、一般教養講義というレベルを超え、産・官・学が連携して課題に取り組み、受講後の問題解決の新チーム構築を可能にします。

第1弾は「木の社会的実現に向けて」11月10日開講。

第2弾は「海洋をテーマ」に2011年4月スタートの予定。

詳細⇒ <http://tsii.todai-alumni.jp/gtc/>

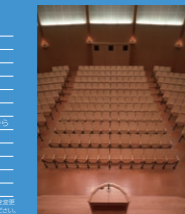
平成22年度冬期開講受講生募集

グレーター東大塾

受講者 (塾長・東京大学大学院農学生命科学研究科教授 安藤直人)
テーマ 「木の社会的実現に向けて」
会場 東京大学駒場キャンパス
受講対象者 新事業企画担当者・木材関連企業
行政関係者
本テーマに関心のある法人関係者
および個人

グレーター東大塾 (Greater Todai Juku)
東京大学における生涯学習プログラムとして発足しました。グレーターは、在学教育を拡大して卒業生や社会人を対象とすることにより実現されています。先端専門性の高いテーマをピックアップして、課題に精通する第一線教授陣を長とする、「塾」形式で開講します。

■受講料	■12回開講日程
35,000円	11/10 木造建築の現状
	11/17 木材産業の現状
	11/24 木材産業の現状
	12/1 建築の現状
	12/8 建築の現状
	12/15 建築の現状
	12/22 建築の現状
	12/29 建築の現状
	1/5 建築の現状
	1/12 建築の現状
	1/19 建築の現状
	1/26 建築の現状
	2/2 建築の現状
	2/9 建築の現状
	2/16 建築の現状
	2/23 建築の現状
	3/2 建築の現状



東大ワールドカフェ ★★★★★ (カフェの会話でつながるサロン型交流プログラム)

カフェのような気軽な雰囲気、多くの人が入り替わりながら行う自由な会話から、新しい発見は生まれるもの。次の時代を拓くテーマを前向き・建設的に対話することを通し、新しい視点や発想が閃く場を、共に創りだしませんか？ 堅苦しい会議で、少人数で論理的に詰める時よりも効果的です。ぜひご参画ください。
今年度のテーマは「技術が拓く未来社会」「新しい資本主義」です。
詳細⇒ <http://tsii.todai-alumni.jp/twc/>
※11月13日(土)にワールドカフェ拡大版「東大ワールドカフェ ホームカミングデイ Special」を開催します。



TFTにいますぐアクセス！

TODAI for tomorrow (略称TFT)は、東京大学と卒業生をつなぐオンラインコミュニティです。TSIIの各種プログラム参加申し込みも極めて便利です。同窓生検索、大学のイベントや公開講座の優先予約など、充実したサービスを次々と準備中です。
詳細⇒ <http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/tft>

伊藤国際学術研究センター(仮称) 2012年春にオープンのお知らせ

赤門の脇、学生会分館跡地に建設中の施設をご存じですか？ この施設は伊藤雅俊氏(セブン&アイ・ホールディングス名誉会長)・伊藤伸子氏(同夫人)のご寄附に基づき新設する、国際会議など学術交流を図るための施設です。大学が社会や世界に向けて行う交流・情報の受発信の拠点とし、卒業生・在校生・留学生たちの国際交流の場とする予定です。



※完成イメージスケッチ

ボランティア活動支援 ★★★★★ (ステップアップや社会貢献のサポートプログラム)

東大からの海外留学経験者や留学希望学生たちが、留学に関する包括的な情報を交換する場を提供します。さらに、共催部署と連携をとり効果的な広報活動も行います。また、海外の外国人留学生の卒業後ネットワーク作りの支援、および支援団体へのプログラムを提案し、ネットワーク作りをサポートします。



詳細⇒ <http://tsii.todai-alumni.jp/volunteer/>

第9回東京大学ホームカミングデイ

卒業生による 各種イベントのご案内

- ※ 9月上旬時点の予定です。詳細はウェブサイトに逐次アップロードします。
- ❖ **NEW** 卒業30周年の集い (中央食堂 16:00 ~ 18:00)
(1976 (S51) 年入学あるいは 1980 (S55) 年卒業の方が対象です)
<http://www.todai-alumni/community/2010/05/30-acc1-1.html>
- ❖ **NEW** 東大ワールドカフェ拡大版 (ホームカミングデイ Special)
厳浩社長をお迎えして300人規模で開催。
16:00 ~ 御殿下記念体育館
- ❖ **NEW** インターナショナル・アラムナイ・フォーラム
(山上会館ハーモニー、18:30 ~ 20:30)
(厳浩社長 立教大学李鍾元副総長、を囲む懇談会です。)
- ❖ **NEW** フォトコンテスト (法文1号館 115 教室)
- ❖ 東大LB会主催：御殿下サッカー祭り (10:00 ~ 16:00)
少年少女サッカー教室も (晴雨不問)
- ❖ 東大落語研究会：寄席 (法文1号館21教室)
- ❖ さつき会：講演会「多様化社会を支える～W-L バランス」岩田喜美枝
(12:00 ~ 17:00 法文1号館113教室)
- ❖ ワンゲル部OB会：講演会「日本酒の楽しみ」(15:00 ~ 16:30、第1食堂メトロ)
- ❖ 科哲の会：第12回談話会 講演 (駒場8号館 #210 教室)
- ❖ 電気系同窓会：パネルディスカッション・同窓会総会・懇親会 (工学部2号館#213教室)
- ❖ 東大数学同窓会：講演会 数学を「見せる」！ (16:00 ~ 17:00、数理科学研究科棟大講義室)
- ❖ 都市工塾：公開自主講座 (10:30 ~ 12:00 工学部14号館141教室)
- ❖ 東大同窓会連合会主催 ①地域同窓会交流会 (10:30 ~ 山上会館)
②自由参加パーティー、同窓生集まれ！
- ❖ 1960年ご卒業生の皆さま：卒業50周年招待の集会室山上会館に用意します。



ワールドカフェ(イメージ)



周年幹事 S45年、S55年、H2年、H12年卒業の皆様は周年幹事に当たります。クラス会や同期生に呼びかけて当日キャンパスでの再会を果たしてください。また「恩師に会おう！」キャンペーンもあります。事務局がお手伝いさせていただきます。

キッズルーム (予定) 幼児をお持ちのご家族がイベント参加する際の預かり保育を計画中です。利用ご希望の方は事務局までお申し込み下さい。 gakuyukai@adm.u-tokyo.ac.jp (氏名・年齢など、メ切りは11月2日(火)です。) 申し込み少数の場合は設置しませんので、ご諒解下さい。

今、東大に還る 13

卒業生インタビュー

持続可能な社会のため ESG* に配慮した経営の時代へ

(*: Environmental, Social, Governanceの略)



シンボリック ジュネーブの国連欧州本部

本シリーズでは、本学卒業生の中で興味深い仕事や魅力的な分野で活躍する方に毎回登場いただいています。今回は国際金融アナリストの末吉竹二郎さんに登場いただきました。現在は、国連環境計画（UNEP）金融イニシアチブ（FI）特別顧問ほか各分野で活躍中です。記事に出てくる「生物多様性条約」のような、国際間で議論・決定される環境対策などは、国民生活に少なからぬ影響をもつものの、問題の所在が日常生活の中では見えにくいゆえ実感しにくい印象があります。今回のインタビューから、経済大国、日本国民のひとりとして、経済活動の中で個人の役割認識を新たに必要とする必要性を痛感しました。

国際連合環境計画とは？

かつての環境問題は原因と被害が同じ地域内という地域限定型（例：水俣病など）が主でした。グローバリゼーションが進むと、原因・被害が国境を跨ぐクロスボーダー型が多発し始めます（例：英国の工場排煙が北欧に酸性雨被害をもたらしたケース）。一国だけでは解決不能な環境問題の時代になったのです。1972年は、「成長の限界（ロームクラブ）」の刊行年ですが、その6月、ストックホルムで「国際連合人間環境会議」が開かれました。深刻化したクロスボーダー型の環境問題が世界を動かしたのです。そこで採

「成長の限界（ロームクラブ）」の刊行年ですが、その6月、ストックホルムで「国際連合人間環境会議」が開かれました。深刻化したクロスボーダー型の環境問題が世界を動かしたのです。そこで採



ジュネーブにて

UNEP金融イニシアチブとは？

多くの首脳会合時の宮澤首相は欠席を含む4万人が参加した史上空前の国際会議です。この会議から2つの歴史的な国際条約が動き始めました。人類が初めてCO2排出削減を約束した「国連気候変動枠組み条約（UNFCCC）」と、今年10月名古屋で開かれるCOP10に関わる「生物の多様性に関する条約（CBD）」です。この2つはいま国際社会が地球環境を守るための2本柱です。このように、UNEPは地球の環境省として地球規模の環境問題に取り組んできました。

ところで、地球サミット準備中のUNEP事務局がこんなことに気付きました。「発足以来20年間、世界の環境問題への取り組みに民間から参加してきたのは産業界だけ。なぜ銀行マンは姿を見せないのか？」おかしかったと思ったUNEPは早速欧州の銀行に参加を呼び掛け、それに応じて始まったのが金融イニシアチブ（FI）です。僅か数行の協力から始まったFIは今ではUNEPと180を超える世界の金融機関がパートナーシップ（国連が外部と結ぶパートナーシップでは最強最大）を組み、金融の環境問題への取り組みをプッシュしています。FIのミッションは「金融機関のあらゆる業務で、

責任投資原則とは

FIの活動で注目を集めているのが「責任投資原則（PRI）」です。株式投資の主目的はお金儲けです。三ヶ月後や一年後に株価が上がれば、儲かると思うから株式を買います。でも、お金がお金を生むだけの視点で投資すると例えば、環境対策をしないがために儲かっている企業の株式を買ってしまうことが起きかねません。これではいつまでもたっても企業は環境対策に取り組みまない、ではどうするか？ 環境に取り組む企業や社会的責任を果たそうとする企業の株式こそ真っ先に買って応援する。こんなことをみんながやれば世の中は変わる筈だ。そう考えた国連がPRI原則をつくり、お金だけでなく、お金では計れない大切な環境や社会的責任なども考慮した投資を勧めているのです。2006年に生まれたPRIですが、既に20兆ドルのお金を動かす800（日本は14）を超える世界の金融

環境と持続可能性のための最も優れた金融慣行の実行を推進することです。環境金融における最も優れた取り組み事例（ベストプラクティス）を生み、皆で共有しようというものです。今の言葉でいえば、「グリーン金融」の拡大と書いていいでしょう。金融の仕事は外からは見え難いですが、社会の基礎的インフラとして非常に重要な役割（＝社会のお金の流れを決める）役割を担っています。どこにお金を流すかを決めるのですから大きなパワーです。本当に社会の必要などところにお金を流しているのか。それとも、環境を壊すなどの事業にお金を回しているのか。お金の流し方一つで経済や社会の在り方がガラリと変わってしまいます。そうした役割と責任を自覚した金融であれば、温暖化問題は固より、生物多様性の保全、水や食糧の危機回避、工口ロジの保全、更には、世界の貧困・格差問題、人権、などの諸問題の解決に貢献できます。FIはそうした金融の活動を広げるための機関です。



すえよし たけじろ 末吉 竹二郎

国連環境計画（United Nations Environment Programme: UNEP）FI特別顧問。国際金融アナリスト
1963年 鹿児島ラ・サール高校出身
1967年 経済学部卒業、三菱銀行入行
その後、東京三菱信託銀行（ニューヨーク法人社長）、日興アセットマネジメント副社長（2002年退職）などを経て現職就任現在に至る。なお2005年4月からTBS-TV（6ch）「みのもんたの朝ズバ!」にコメンテーター（毎週月曜日）出演中。
著書：「地球温暖化講義」「新生日本」「カーボリスク（共著）」、「有害連鎖」など。

機関が署名し、責任投資に取り組み始めています。（PRI = Principles for Responsible Investment）

FIとの関わりのきっかけ

FIに関わるようになったきっかけは、2000年11月のフランクフルトのFI国際会議でした。当時、私が勤めていた日興アセットが売り出した日本初の環境金融商品「エコファンド」が大成功し、それに注目した国連から招集がかかったのです。FI会議でのスピーチから、FI活動を支援する要請を受けました。この会議は「目から鱗」でした。それまで長年仕事をしてきた金融がこれほどまでに社会の問題に関わりがあるとはつゆ思ってもみなかったのです。この時から金融を見る目が変わりました。

ESG経営の時代が始まった

お金を扱う金融の世界に、お金以外の物差しでお金を計る時代が始まりました。新しい価値基準は環境（E）、社会的責任（S）、それに、ガバナンス（G）などです。私はESGを配慮した経営を「ESG経営」と呼んでいます。いま、地球社会が置かれている状況を見れば見るほど、ESG経営の大切さが身に滲みてきます。20世紀型の経済成長至上主義ではもうこの地球は持ちません。同じ成長でもより持続可能なものに転換しなければ21世紀はないのです。とすれば、企業経営も利

益一本槍からESGを配慮したものに変わらなければなりません。いや、これからはESG経営こそ企業が繁栄する競争力の源なのです。そのESG経営を広めるために、日本や世界の金融はどうあるべきか、それを考えている毎日です。

後輩へのアドバイス

21世紀は世界規模の課題が山積・深刻化する時代になってしまいました。日本は世界が健康でなければ生きていけません。とすれば、世界の課題を解決し、地球を持続可能なものにするには日本が生きていくための至上命題です。この命題を解く力ギは世界の視点だと思っています。「グローバルな視点から日本の事を考える」。このことを若い方々に強く望んでいます。



FI会議で

薬学系研究科・薬学部 天然物化学教室

東京大学のゼミ・研究室の歴史と人脈をたどります。第10回は 薬学系研究科・分子薬学専攻の「天然物化学教室」取材しました。薬学系総合研究棟10階の研究室で阿部教授からお話をお聞きしました。

薬学部の沿革

一般に薬学部は「薬剤師を養成する学科」というイメージが強いと思います。欧米では古くから「医薬分業ルール」があり「薬学部」は「薬剤師養成課程」の役割が定着してまいりました。日本では「医薬同一体制」が大昔から続いた事情から「医薬分業」が浸透しにくく、東京医学校改組の医科大学（後の東大薬学部）に製薬学科（後の薬学）が設置されたのも医薬同一体制が影響したと思われる。当初は生薬学・衛生裁判化学・薬化学の3講座が制定された歴史から、日本の薬学が「創薬化学研究」に特化していった経緯を見ることが出来ます。（天然物化学教室はこの生薬学講座が淵源です。講座は逐次拡充し戦前には計6講座、1958年に医学部から独立し東大薬学部誕生以後に計14講座となり、学生定員も35名→70名と倍増しました。平成6年には定員80名、また大学院重視体制へと進み、現在は講座（教室）数24、連携講座・寄付講座累計11となっております。

創薬の基礎には、生命の仕組みと病気の原因との解明があります。このため、生化学・分子生物学・生理化学・発生物学・遺伝学・免疫学などの観点から生命現象を解明すること、また合成化学・反応化学が薬品合成に不可欠です。加えて天然物化学・分析化学・物理化学・体内動態の解明と製剤設計、薬理学・毒性学なども必須です。このように基礎的から応用的な学問まで幅広い研究が必要であり、東大薬学部は「物質科学」と「人間の健康」の融合を追求する役割を果たすべく、創薬の専門家養成の教育を重点においてきました。法改正により2008年から薬剤師国家試験の受験資格が大学6年の修業年限制になったので、東大では薬剤師養成コースを「薬学」名称とし6年制に改組しましたが、その定員は1学年（80名）の約1割相当です。従来の「薬学」は「薬科学」に名称変更し、創薬研究は薬学部2年、大学院（2年+3年）のコースという様に、薬学部を2分しました。進路選択は4年進級時に卒業論の研究室配属を決める際とし、また薬科学科コースからでも大学院修了と所定の学位目・実務実習を履修すれば受験資格が得られるよう柔軟性を持たせています。

1893年の学科創設時の生薬学講座の下山順一郎教授は日本伝統の本草学を近代生薬学に体系付けた学者です（胸像あり）。後任の朝比奈泰彦教授は和漢薬成分の科学的研究展開とまた当時未開拓であった「地衣類」の化学構造決定、更には生合成研究へと展開しました。以後の藤田直市、浅野三三三、更に戦後の講座担当教授柴田承二と各教授へと受け継がれ、この間、菌類の分離と培養法を確立、薬理学的研究により天然薬物成分と生物活性の構造活性相関、植物の組織培養による物質生産系確立へ展開してきました。1970年代から三川潮教授、1990年代の海老塚豊教授と講座担当が受け継がれ現在の阿部教授は8代目になります。現在の研究内容は、①遺伝子資源活用などによる天然物生合成（非天然型新規化合物の創出）②酵素の触媒機能制御（効率的生産法）、③生物活性物質の探索と単離構造決定、の3点が主です。研究手法は低分子化合物の取り扱いから遺伝子操作酵素タンパク質の結晶化・変異酵素の作成まで、有機化学を基盤としながら化学、生物学、物理分析化学、酵素工学まで多領域分野の手法を用いています。



天然物化学教室実験室にて学生と



阿部 郁朗

神奈川県多摩高校出身 理科Ⅱ類入学
1984年 東大薬学部卒業
1986年 東大院薬学系修士課程修了
1989年 同 博士課程修了
フランス国立天然物化学研究所、CNRS 研究員、米国 NY 州立大研究助教授、ユタ大研究助教授、静岡県立大学薬学部准教授を経て
2009年 薬学系研究科教授就任
現在に至る
URL: <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~tennen/head.htm>

卒業生と同窓会

学部同窓会は「東京大学薬友会」で、薬学部薬学時代の時代から一貫して固い結束で同窓会活動を続けています。2008年4月には学部創立50周年の記念行事（祝賀会）を帝国ホテルで開催しました。

修士課程定員は100名で卒業生の大学院進学率は年々増加し9割以上です。卒業生の進路は 大学・研究機関、製薬・化学系の会社と薬務系公務員が大きな柱です。薬剤師進路が少数であるため卒業後も研究・開発に従事するケースが圧倒的に多く、これは韓国・台湾など外国人留学生の帰国後進路もほぼ同様です。天然物化学教室の講座の担当教授は全て講座の先輩ですが、中でも柴田承二先生は文化功労者・学士院会員で斯界の最長老です。またマスコミで著名な方には毒草・毒薬の解説書を多数執筆した山崎幹夫千葉大名誉教授（1965年博士修了）他多数居られます。



薬学系総合研究棟(2006年4月完成)

天然物化学教室実験室 <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~tennen/professor.html>



卒業生寄稿

私にとっての東大

次世代に伝えたい。

人はどこから来て、どこへ行くのか。この有名な言葉には、その先が欠けている。「そして人はその先を誰に託すのか、だ。いきなり妙な書き出しとなったが、これは在学中に書いた文章そのままである。宇宙に自分の機械を送りたい、ただそれだけの理由で進学した東大での日々もすっかり昔話になり、中谷研在籍時に開発が始まった小惑星探査ローバ MINERVA が旅立ってから7年が過ぎている。そして先を託すべき相手として、人に替わり先を行く者として機械しか思いつかなかった私は現在、人間相手の仕事をしている。心境の変化を問われることはかなり多いが、実のところあまり変化は無い。医師を選んだ理由はただひとつ。「世界中どこにでも行ける仕事だ」からだ。私という機能が存在できるのはせいぜい残り半世紀以下、崇高な問題に挑む時間は到底、ない。そもそも向いていないし、挑む気力も無いのは横に置く。世界とにかく、根源にある動機は変わらない。世界

を見たい、知りたい。それだけだ。人が物理的に行けない世界、深宇宙に今すぐ挑むには、機械という分身が必要になる。そこに人間のプレゼンスがあるとしたら、彼らを構成する全てを生み出した意思だけだろう。では、人の行ける世界はどうだろうか。むしろこの世界は広く複雑で、とっつき一人でも巡るものではないし、解明できるものでもない。巨人の肩に乗って遠くを見るのがせいぜいで、あつという間に時間切れが来る。しかし此方もまた「その先を託す事が可能だ。後継者育成とまで言う気は、無い。それが出来る保障も無い。だが、外を見たいと願う者の背中を押してやること、自分が見ることの適わない領域へ押し込んでやる事くらいは、できるだろう。自らが進めない場所を見つけたとき、ただそこで諦めるのではなく、誰かを先に進ませる。そのメッセージだけでもいい、伝えてくれる相手を育てる。それがどこにでも行ける」事なのかもしれない。



Fushiki Yoko

伏木 陽子

1997年3月工・電子工学科卒業
1999年3月院・工学系電子工学専攻修了
同年5月より Schlumberger 入社。
(株)リクルート、(株)アイアイジェイテクノロジー勤務を経て
2003年群馬大学医学部医学科に学士編入。
2005年より公募予備自衛官、
2007年より医師(病院勤務)。



病院にて

南原繁シンポジウムのご案内

第7回 南原繁をめぐる人々
—天皇制と戦争放棄とをめぐって—
(主催: 南原繁研究会 / 代表 加藤節氏)

日時: 11月3日(水/祝日) 13:00~16:40
場所: 学士会館 210号室 (電話 03-3292-5936)
参加費: ¥1,000
申し込み方法: Fax 0422-37-3876、
e-mail shigeru@nanbara.sakura.ne.jp
チラシのコピーは URL <http://todai-alumni.jp> でご参照下さい。

学生支援センター改築竣工のお知らせ

卒業生の方々も御縁があった学生部(現: 教育・学生支援部)のオフィスが面目一新しました。御殿下記念館モール階に6月から7月にかけて逐次竣工移転しました。



- B1: 学生支援課、バリアフリー支援室
- 1階: 奨学厚生課
- 2階: 留学生・外国人研究者支援課
- 3階: 学生用施設

鎌倉淡青会「五街道を歩く会」 旧東海道に次いで日光街道を踏破!

「五街道を歩く会」では、昨年10月東京日本橋をスタート、月1回の催行で11日間を要して7月13日(火)、総勢46名(家族を含む)が日光東照宮に到着した。これは2009年7月8日に2年半、35日間をかけて旧東海道を踏破したのに次ぐ快挙となった。東照宮に正式参拝後、宇都宮のホテルでの打上げ会には、同窓会連合会の長崎事務局長にもご参加頂いた。また、当日は栃木銀杏会の総会、懇親会が同じホテルで開催され、相互に交流・親睦を図ることが出来て、二重の喜びとなった。「五街道を歩く会」の次なる目標は奥州街道の踏破であり、本年10月から月1回(1泊2日)のペースで、来秋の仙台到着を予定している。

(幹事 池戸誠二郎・高津有二)



新入学生を歓迎する県人会

(その1)

東京大学徳島県人会の春の例会が、6月6日、駒場ファカルティハウスで開かれ、在学生13人、卒業生17人が参加しました。石井正則・前会長(1958年法卒)から、高尾義彦会長(1969年文卒)に引き継がれた最初の例会です。春は、新入生歓迎の趣旨で開催し、新入生6人が自己紹介の後、それぞれの抱負を語り、卒業生から「自分が本当に好きになれることを見つけて、勉学に励んで欲しい」などのアドバイスがあって、なごやかな一日となりました。席上、元ニュージーランド大使で原子力委員会委員長代理も務めた遠藤哲也



さん(1958年法卒)が朝鮮半島の緊張など最近の国際情勢について報告しました。秋は、就職が決定した学生の激励を兼ねて10月30日に例会を開きます。

(高尾義彦)

(その2)

長野県は教育県の盛名を誇りにしていましたが、近年は全県入学生が40人と、都会の進学校一校分しかいません。また昔は必ずあった、高校別の新人歓迎会の伝統も無くなっていました。徳島県に続け!と、全県の新入生歓迎会を駒場ファカルティハウスで6月18日開催しました。何しろ初めてのことで、卒業生の出身高校調べや新入生との連絡方法など慣れない作業に右往左往しましたが、当日は新人・卒業生それぞれ20名ずつの出席を得て、意外に女子学生が多く、皆が元気な様子に年配の卒業生も安堵しました。来年以降も続けたいと思い、また他の府県も開催できたら、など収穫の多い会合でした。(逞盈)

台湾交友聯誼会 近況

8月4日夜 東京大学台湾交友聯誼会の理事・監事らが台北市の圓山大飯店のクラブにて田中明彦先生の台湾訪問の歓迎会を開きました。黄博治理事長の歓迎の辞の後に 田中先生は東京大学の現状及び訪台の目的等を紹介して下さいました。その後は自由歓談で台湾交友のいろんな面からのお話との意見交換をしました。今回の会合で赤門学友会のお手伝いで現在、東京大学在学中の台湾留学生会の代表(陳黎明さん)も出席しましたので今後の校友会のメンバー拡大には大変役に立ちます(廖年祈:台湾交友聯誼会秘書長)。



写真は3月6日の総会暨歓迎会のとき撮影

滋賀銀杏会

昨年7月に発足した滋賀銀杏会は、年1回の総会を8月1日(日)に開催しました。幅広い年齢層から27名の会員に参加をいただきました。また、当日は東京大学同窓会連合会、関西東大会から遠路はるばるゲスト参加をいただきました。総会は、武村正義会長の挨拶で始まり、その後会員お二人から、取り組んでおられる趣味や活動についてスピーチをいただきました。総会終了後は琵琶湖畔のレストランに場所をうつし、昼食を取りながらの懇親会を行いました。ここでも多くの会員からスピーチをいただきながら、世代を超えて、和やかに懇親を深めることができました。(上田重和)



赤門乗馬会有志の山中合宿訪問記

8月14、15日の両日、赤門乗馬会会員と家族有志17名が山中湖に参集、東大馬術部の夏季合宿を訪問した。天候に恵まれて、14日夜、東大山中寮にて現役を交えてパーベキューパーティーを行い、現役学生を激励かたがた交流を深め、寮に宿泊。翌朝は五時出走にて山中湖一周マラソン(14km)を実施。5名のOB・OG(40歳台から70歳台)が挑戦、これに現役学生13名が参加、総勢十八人全員がみごと完走した。その後朝食を摂り、直ぐに馬場に出て全員が騎乗、充実した2日間のイベントを終えた。(岡崎洋次郎)



NYさつき会活動報告



NYさつき会第1回総会



Boston地区ランチ会



DC地区懇親ランチ会

NYさつき会は昨春設立以来現在まで会員は100名を超え、NY本部以外にもBostonとDCで地区会が立ち上がっています。今春は総会と、3地区でランチ会や夕食会を開催しました(写真参照)。国連関連、ビジネス・ウーマン、弁護士、会計士等プロフェッショナルが多いNY、留学生(企業・官庁派遣含)が圧倒的なBoston、世銀等の国際機関職員が多いDCと、地区ごとに興味深い特色があります。東大女子卒業生が異国の地でもこのように交流し、互いに支援・刺激し合っている場があるということを知って頂き、ネットワークの拡大に役立てて頂けたらと思います。NYさつき会は今後、全米を対象に一層交流の場を拡げていく予定です。幹事へのお問合せはNY-Satsuki-kai-owner@yahoo.comまで。(伊申久美子 96法卒・98法院修了)

豊島学寮閉寮記念大同窓会報告

豊島学寮(豊島区西巢鴨)は、本年9月末をもって閉寮することになり、閉寮を記念した同窓会を6月12日(土)に豊島学寮で開催しました。豊島学寮の歴史は、1950年に木造二階建ての東寮(50人)が始まりです。東寮は2000年まで50年間利用し、その跡地には現在、国際学生宿舎が建っています。1962年に鉄筋コンクリート造りの南北寮(150人)と管理等が竣工し今年で48年目です。1963年より現在まで47年間食堂で勤務している調理師の古川淳一さんによる開会の辞の後、駆けつけた300名超の卒業生は、学生時代を過ごした懐かしの居室を見学し、仲間と在寮中の思い出や卒業後の歩みを語り合っ、時空を超えた楽しい時間を過ごしました。(辻岡昌浩)



同窓会・イベント開催報告



赤門学友会加盟の
同窓会の活動をお伝えします

各地で開催される同窓会には、大学の役員が積極的に参加しております。ぜひ、開催予定をお知らせください。
お問い合わせ: 赤門学友会事務局
電話: 03-5841-1249 E-mail: gakyuyukai@adm.u-tokyo.ac.jp

水産学科創立100周年記念式典

6月5日(土)14時から、農学部弥生講堂において、農学部水産学科 創立100周年の記念式典・記念シンポジウムおよび祝賀会を開催した。記念式典では、會田勝美名誉教授の式辞、島一雄紫水会(水産学科・水圏生物科学専攻同窓会)会長の挨拶、生源寺真一農学生命科学研究科長および竹内俊郎日本水産学会会長の祝辞が披露された。記念シンポジウムでは、萩原篤志長崎大学教授(演題「ミクロ海洋生物の生理機能解明と産業への展開」)、渡部終五教授(「水産化学の過去、現在、未来」)、飯田貴次水産総合研究センター養殖研究所(「日本の養殖のこれから——研究技術開発の役割」)の講演が行われた。その後、講堂内ホールで祝賀会を開催、卒業生、教職員、在校生などおよそ140名が出席、懇親の時をもらった。卒業生にとって50年後の会を期するよい機会となった。記念事業の一環として、水産学科(水圏生物科学専攻)各研究室の100年間の歩みを取りまとめた記念誌「東京大学農学部水産学科の百年」ならびに、紫水会が毎年発行している「同窓便り」や各研究室所蔵の写真などを収録したDVDを上梓した。(松永茂樹)



英国赤門学友会第二回総会開催

6月5日、ロンドンで英国赤門学友会の第二回総会を開催しました。テムズ川を往来する水運業者のギルドの集会所として18世紀に建てられたWatermen's Hallを貸し切り、46名のメンバーの参加を得て大変な盛会となりました。2009年1月の発足以来、早くも登録会員数は196名に達しており、ビッグベン(国会議事堂)のお膝元のパブでの定例会に加えてゴルフ部も活動を開始しています。英国という土地柄、企業派遣の方のみならず研究者や留学生の参加も数多く、世代や業種を超えた交流の場になっています。(相開 健)



古本募金ははじめました!

本棚に収まりきらなくなった書籍のスペース、引越しの際、大量の書籍を新居に持っていきかお困りになった経験はありませんか。

古本募金「Books for NEXT」は、それらの書籍を社会へ還元させるとともに、東京大学の教育・研究に役立てられるプロジェクトです。ご自宅では、書籍を段ボールに詰めるだけ。送料は当プロジェクトが負担いたします。(5冊以上から)

1. 送料は無料(※5冊以上)です
2. 運送業者が集荷に伺います
3. 書籍の売却代金は、東京大学に寄付され、教育・研究に役立てられます
4. 一部の書籍は、小中学校の図書館や海外の研究機関に寄贈します

オンラインからも申込可能です。
<http://books.todai-kikin.jp/>



簡単! 申込方法

- STEP1** 申込書を WEB から入手
STEP2 電話申込で集荷(0120-826-292)古本募金「Books for NEXT」の件とお伝えください。



東大に寄附した遺産に相続税はかかりません!

東大に遺産を寄附することを考えているが、相続税はどうなるの?とお考えの方へ。相続税の申告期限はお亡くなりになった翌日から10ヶ月以内ですが、この期限内に相続人の方が東大に遺産を寄附した場合、「教育若しくは科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献その他公益の増進に著しく寄与するもの」への贈与に該当するため、寄附した遺産について相続税はかからないことになっています。この場合、相続税申告書に東大が発行する明細書を添付することが必要です。



会計人東大会
事務局長
おしうみ かずあき
鷗海 量明
(H2 経卒)

「**会計人東大会**」(赤門学友会登録) 会計に関する実務や研究活動に従事している卒業生を中心にした同窓団体です。
 会長: 磯部正昭 (S41 文卒)

遺言、相続に限らず公認会計士・税理士へのご相談があれば
 —●●税理士法人おしうみ総合会計事務所●●—
 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-13-5 赤坂会館5階
 TEL.03-3568-6532 kaz_oshiumi@oshiumi-cpa.jp

『東大基金』、サイトリニューアルのお知らせ

東京大学基金は、10月1日、WEBサイトを全面的にリニューアルいたしました。今回のリニューアルでは各種情報をより分かりやすく皆さまにお伝えできるよう、キャンペーン中の募金活動「支援プロジェクト」サイトと、寄附者の思いを伝える「寄附者の声」サイトを追加し、東京大学への寄附についてご理解を一層深めていただけるようにコンテンツの充実を図りました。

- 主な変更点は下記のとおりです。
- 「募金プロジェクト」サイトの追加
 - 「寄附者の声」サイトの追加
 - 新しい決済方法「PayPal」の追加



URL: <http://utf.u-tokyo.ac.jp>

東大基金

検索

東京大学基金へのご寄附のお願い

大学への寄附、それは「未来への投資」 2020年には、2000億円の基金へ



平素より東京大学に多大なご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。東京大学には、未来を担う人材、最先端の研究、世に役立つ様々な社会貢献活動があります。これらの活動への寄附を皆様に提案していくことで「社会との接点を求めていく大学」を目指してまいります。大学への寄附、それは未来へ投資することなのです。皆様からの温かいご支援により、東京大学基金資産残高は、2010年3月末現在420億円に達しました。引き続き「TODAI2000—2020年には2000億円の基金へ」に向かって活動してまいります。どうか、更に多くの皆様からご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東京大学副理事 渉外本部長 杉山 健一

基金パンフレット「**東京大学基金寄附のお願い**」を同封いたしました。綴じ込みの「**払込取扱票**」(兼・寄附申込書)に必要事項をご記入の上、郵便局、銀行から振込みください。ご寄附の皆様には、様々な特典、税制上のメリットがあります。30万円以上(累計)ご寄附いただいた方には、お名前(連名も可)を刻印した銘板を安田講堂に掲示させていただきます。



安田講堂全景 講堂内の銘板掲示例

寄附者特典

この度、メールアドレスを頂いている寄附者の方々を対象に3組6名様を「ハーバード白熱教室」にご招待致しました。当日の様子を報告致します。

ハーバード白熱教室レポート Justice with Michael Sandel

8月25日NHK 教育テレビで話題のハーバード大学マイケル・サンデル教授の授業が安田講堂で行われた。対話式の講義は冒頭からサンデルが「友人から『日本人は議論が苦手』と聞いたが大丈夫か?」と挑発し、学生が「我々は新しい世代だ。心配ない。」と自信満々に返し拍手を受ける中で始まった。テーマは「ボート漂流者の殺人」「イチローの年収」「犯罪者の兄弟」「他国援助」から最後は「戦争責任」に至った。「オバマは原爆投下について謝罪すべきか」という重すぎるテーマを



学生を指名するサンデル教授

学生たちは真摯にかつ明快に論じた。サンデルはどんな意見も否定せず鮮やかにまとめていく。

最後に「疑問は解決されてない。合意もできなかった。しかし、意見が異なる人たちが解決不可能なテーマについて話し合いをすることは無駄ではない。どんなセンシティブな問題もこうやって議論ができる。」とサンデルは言った。考えること、そして議論が重要だと彼は主張する。そして深く謝罪。「今日は素晴らしい議論を聞いた。友人は間違えていた。」

講義の後、寄附者の方々の感想を聞いた。「学生たちはいい議論をしていた。」「自分も手を挙げたかった。」「道徳を正面切って議論したのは新鮮だ。」「今日の様な授業であれば哲学も判り易い。」「どなたも長時間の講義の後にも拘わらず興奮した面持ちで回答された。」

皆さん、今度会ったら「正義」について話しましょう。



学生 VS サンデル教授

皆さまの投稿をお待ちしています。

(次の20号の掲載原稿は11月末が締め切りです)

1. 同窓生の消息や思い出の資料を探す

「ご存知ありませんか？」

150字以内で原稿をお送りください。

2. 「私にとっての東大、次世代に伝えたい(1000字以内)」

原稿とお写真、自己紹介文(60字程度)をお送りください。

3. 「同窓会便り(300字以内)」原稿募集

原稿とお写真をお送りください。

4. 住所変更など

会報「懐徳」のお届け先の変更は、事務局(下記)までご連絡ください。

連絡先

Tel. 03-5841-1227(平日10:00~12:00, 13:00~17:00)

Fax. 03-5841-1054 gakyukai@adm.u-tokyo.ac.jp

TFT (Today for tomorrow)

- 卒業生と大学の絆を深めるオンラインコミュニティです。
- 個人で登録していただけます。
- パーマメントアドレス(東大オリジナル)取得やサイト内同窓生検索ができます。

オンラインコミュニティ「TODAI for tomorrow」=tft への登録をお奨めします。(http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/tft/ からアクセスできます。)

登録済みの方の住所変更等はマイページ「ご登録情報」にてご自分で変更できます。

会報が同一人に2冊以上届いていませんか？

→下記へ御一報下さい。

電算処理の際、表記の些細な違いから、別人判定される場合があります、名寄せ作業の難問になっています。

赤門学友会報

懐徳 赤門学友会会報誌 / No.19 2010.10 発行

発行事務局

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

Tel. 03-5841-1249 (平日10:00~12:00, 13:00~17:00)

Fax. 03-5841-1054

E-mail : gakyukai@adm.u-tokyo.ac.jp

http://www.todai-alumni.jp

表紙写真モデル

今号の表紙のモデルは、2010年秋期リーグを目前にした東京大学硬式野球部OBと現役主将のみなさんです。



はやかわ むんた
早川 間多さん (OB)

1974年文学部卒

「同世代を戦い、卒業後プロで活躍した、嘗てのライバルとの勝負が今でも忘れられません。あと1勝でリーグ4位というシーズンもありました」大学で初めて野球を始め、投手として活躍した4年間は、その後の人生の大きな糧となりました。



やまもと たかき
山本 隆樹さん (OB)

1975年法学部卒

「高校まで野球の経験はあるのですが、本格的に野球を始めたのは東大に入学してからです」神宮を同時代共に戦った早川さんや御手洗さんとは、同じ投手として切磋琢磨しながら競い合った友。今でも東大の成績が気になります。



みたらい けんじ
御手洗 健治さん (監督)

1975年農学部卒

小学生時にソフトボールと出会い、以後中学、高校と、投手として野球に打ち込み、東大入学後も投手として、数々の名勝負を繰り広げて来ました。2009年11月に硬式野球部の監督に就任。全OBの悲願であるリーグ優勝を目指します。



まえだ よしひろ
前田 善博さん (主将・投手)

農学部4年在学

少年野球から始まり、高校まで軟式野球の経験を積んで、入学後、硬式野球部に入部。「それまで内野手と投手を掛け持ってきましたが、2年生から本格的に投手に専念しました」と言う前田主将の目標は、現役最後のシーズンでリーグ優勝。

赤門学友会とは

- 1) 「赤門学友会」は大学の機関である「卒業生室」の実動部門の形で大学理事の下で活動しています。(発足は国立大法人化の2004年10月。) 活動目的は大学と会員、会員相互のコミュニケーションの緊密化であり、卒業生に母校をより身近な存在に感じていただき、大学支援の環境を醸成することです。
- 2) 設立以来、会員と連絡のための名簿整備を鋭意進めています。名簿情報の流出防止のため、法と校則に従って厳重に管理しています。同窓会の代表者・クラス会幹事の皆さまには「母校愛」の観点から最新の団体名簿ご提供にご協力をお願いします。また卒業生個人としては、tft (TODAI for tomorrow) システムへの登録にご協力ください(アクセスは左欄ご参照ください)。
- 3) よくある質問で「学士会とどう違うのか？」などの誤解がありますが、赤門学友会と学士会は全く別の団体です。現在の学士会は、旧帝国大学(現7校)出身の学士・修士・博士・教員が有資格者の団体です。(図をご参照ください。) 赤門学友会は東京大学関係者の団体です。

